

●中国

徳永 崇

概況。物価や人件費の上昇という困難に直面しながらも、各団体が様々に工夫し、健闘する姿がうかがえる。コンサート単体を見ると、集客についてはほぼコロナ禍以前、あるいはそれ以上の水準を回復するも、財団や自治体の経済状況により公演数の減少や、確実に収益を確保できる企画内容に向かう傾向が見られ、海外や国内主要団体の巡業の減少も目立つ。そのような中、福山のリーデンローズで昨年からはまった広島交響楽団と京都市交響楽団による定期公演が好調。被爆80周年の節目を迎え、広島を中心に多くの平和関連公演が行われた。

広島。広島交響楽団が被爆80周年特別定期演奏会を含む11回の定期演奏会を実施。音楽監督就任2年目となるアルミンクの采配か、ドヴォルザークやヤナーチェクの演目が複数回取り上げられたことに加え、細川俊夫《森のなかで》(10月第455回定期)や2024年逝去したリームの《厳肅な歌》(4月第450回定期)など新しい作品も。ガーシュウインの作品のみで構成された3月の第449回定期(指揮/pf: ウェイン・マーシャル)や、生誕100年となる芥川也寸志の作品のみで構成された7月の第453定期(指揮: 高関健)など、特集の仕方にもこだわりが見える。ヴァイオリンの庄司紗矢香を招いた11月の第456回定期も好評。6月の被爆80周年特別定期演奏会ではショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第1番とチャイコフスキーの交響曲第5番が披露された(指揮: アンドリス・ポーガ, pf: 角野隼斗, trp: 児玉隼人)。

定期以外の広響公演としては、例年の「平和コンサート」(8月)に加え、アルグリッチを招聘した「被爆80周年 Music for Peace」公演など、平和関連の大きな企画が目立つ。また、テーマを深掘りする「ディスカバリー・シリーズ」が7月より「シン・ディスカバリー・シリーズ」と名称を変え、2025年は4回実施。モーツァルトを定点的に取り上げつつ、被爆80周年に絡んで嵯場富美子《広島レクイエム》(2月)、藤倉大のピアノ協奏曲第4番「Akiko's Piano」(7月)、大木正夫の交響曲第5番「ヒロシマ」(10月)など平和に関わる演目多数。名曲を聴かせる「音楽の花束」シリーズは3回実施され、前年に第2回ひろしま国際指揮者コンクールで優勝したシェン・イーウェンとピアノの上原彩子がチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を好演(5月)。12月の「第九ひろしま」は垣内悠希指揮。

オペラ分野では、ひろしまオペラ・音楽推進委員会による8月の《セヴィリアの理髪師》が前年度集客を上回る盛況。広島シテオペラが《こうもり》を2月に、広島オペラアンサンブルが《カルメン》を11月に。

吹奏楽分野では、広島ウインドオーケストラが6月の第63回定期演奏会に第1回ひろしま国際指揮者コンクール優勝の大井駿を招聘し、ガーシュウインの《ラブソディー・イン・ブルー》吹奏楽編曲版を弾き振りにて披露。また、平和定期演奏会シリーズを始動し、10月の第1回公演で保科洋のオペラ《はだしのゲン》セレクションなど演奏。

現代音楽分野では、上記の広響公演のほか、アンサンブル・アッカが広島文化賞受賞(2022年度)記念公演として第21回定期演奏会を開催し、吉松隆、久留智之、コスキネンらの作品を取り上げる。

福山。ふくやま芸術文化ホール(リーデンローズ)では、広島交響楽団及び京都市交響楽団による福山定期が2年目を迎え好調。この企画は、各公演を2日間連続で行い、そのうち1回は近隣の中学2年生を無料で招待するという教育的効果を狙ったもの。本年は広響が4回(2・3・6・9月)、京響が2回(4・10月)を実施。上記を含む様々な取り組みが評価され、本ホールは令和7年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞。地元企業からの協賛を呼び込む芸術文化財団の豊田泰久理事長や作田忠司館長の取り組みは、衰退する我が国の文化事業を活性化させる上で多くの示唆を与える。例年の「ばらのまち福山国際音楽祭」(5月)では、ヴィニシウス・カッター(指揮)、ジェニファー・ラリー(sop)、南紫音(vn)、周防亮介(vn)らを招聘。

東広島。芸術文化ホール「くらら」では、ヴィータ◆ムジカ◆オペラが「アイダ」を5月に。ハーブのグザヴィエ・ドゥ・メストレが10月にリサイタル。11月の広響第6回東広島定期演奏会でショパンのピアノ協奏曲他(指揮: 広上淳一, pf: 中川優芽花)。12月の須川展也サクソ・リサイタルでは、後半で公募により集まった多くの一般参加者が共演し話題に。

呉。ベルリン交響楽団がモーツァルトのオーボエ協奏曲とシューマンのピアノ協奏曲他を6月に(指揮/ob: シェレンベルガー, pf: 石井琢磨)。7月の広響第35回呉定期演奏会でベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲他(指揮: 徳永二男, vn: 郷古廉)。

廿日市。4月の広響第28回廿日市定期演奏会でグリーグのピアノ協奏曲他（指揮：アルミンク，pf：江口玲）。6月に「はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”」がヴェルディの弦楽四重奏曲（弦楽合奏版）他（指揮・ヴァイオリン：長原幸太）。9月にヤブウォンスキのピアノリサイタル。

岡山。岡山フィルハーモニック管弦楽団のミュージックアドバイザーを務めた秋山和慶が1月に逝去。ニューイヤークンサートと4回の定期演奏会を実施する中，秋山が出演予定であった公演については指揮者の交代で対応。3月第83回定期でシベリウスのヴァイオリン協奏曲他（指揮：高関健，vn：竹澤恭子），5月の第84回定期でスメタナの連作交響詩他「我が祖国」（指揮：三ツ橋敬子）など。なお，7月からホームの岡山シンフォニーホールが改修工事のため，津山文化センターや倉敷市民会館等に分散して公演を実施。海外団体については，ベルリン交響楽団が呉公演と同内容で7月に。オペラ分野では，関西歌劇団がマスネ《サンドリヨン》を12月に。

島根。9月の広響第32回島根定期でチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲他（指揮：飯森範親，vn：周防亮介，出雲市民会館）。開館20周年となるグラントワでは，ロシアやドイツから演奏家を招聘し「国際音楽交歓コンサート2025」を9月に。プラバホールでは，児玉隼人トランペット・リサイタルが7月に，神尾真由子&萩原麻未デュオ・リサイタルが9月に。

山口。周南市文化会館で5月にウィーン少年合唱団公演。宇部市渡辺翁記念会館で日フィルが10月に第18回UBEクラシックコンサート，反田恭平が11月にピアノリサイタル，12月にベルリンフィルの弦楽奏者たちと共演。山口市市民会館で12月に児玉隼人トランペット・リサイタル。

鳥取。7月に米子市公会堂で新日本フィルがシューマンのピアノ協奏曲他（指揮：川本貢司，ピアノ：石井琢磨。とりぎん文化会館でスイス・ロマンド管弦楽団がストラヴィンスキー《春の祭典》他（指揮：ジョナサン・ノット）。9月に米子文化ホールで「B→C山本耕平テノールリサイタル」の米子公演。

徳永 崇（とくなが・たかし）

作曲家。広島大学大学院人間社会科学研究科教授。広島大学大学院教育学研究科，東京藝術大学音楽学部別科作曲専修及び愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。ISCM World Music Days入選（2002/香港，2014/ヴロツワフ）。武生作曲賞（2005）。作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」メンバーとしてサントリー芸術財団第9回「佐治敬三賞」（2010）など。